

特集
市民と本をつなぎます

市立図書館

好きな本を読んだり、調べ物をしたり、映画を見たり…。赤ちゃんからお年寄りまで、いろいろな楽しみ方がある「図書館」。現在の市立図書館は平成6年4月に開館し、ことしで20周年を迎えました。本市の生涯学習と情報・文化の拠点として、市民の皆さんに愛されてきた図書館。今回の特集では、近年の利用状況や読み語りの取り組み、ヤングアダルト図書コーナーなどについてお知らせします。



昭和35年4月から平成6年までの間、市民に親しまれてきた旧市立図書館



昭和28年ごろに市内各地域を巡回して図書を貸し出していた移動公民館

最新鋭の設備の新図書館

今から約20年前、現在の第2駐車場の場所にあった旧図書館は築後40年を経過し、老朽化やスペース不足などの問題を抱えていました。そこで本市は総事業費約34億円を掛けて新しい市立図書館の建設を計画。平成6年4月に近代的な外観を持つ図書館が完成しました。開館当時に担当職員として勤務していた川嶋健司館長は、「最新鋭の設備を備えた広い図書館の建設を誰もがワクワクして待っていました」と当時を振り返りました。長年にわたり市民の皆さんからご理解とご支援をいただき、ことしで新館の開館から20周年を迎えた市立図書館。蔵書の充実はもちろんのこと、インターネットで蔵書検索や予約ができるサービスを導入するなど、時代とともにサービスを充実させてきたことから、貸し出し件数もオープン時より増加しています(表1)。

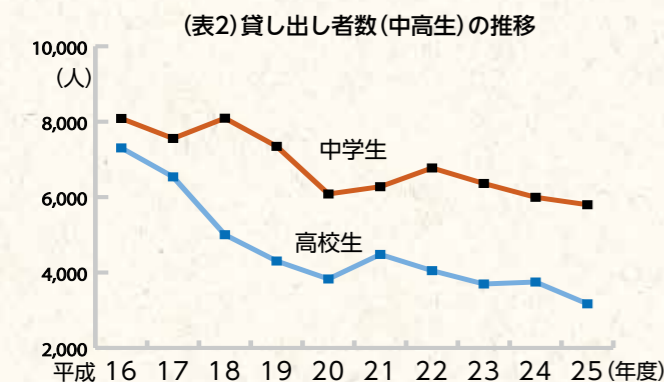
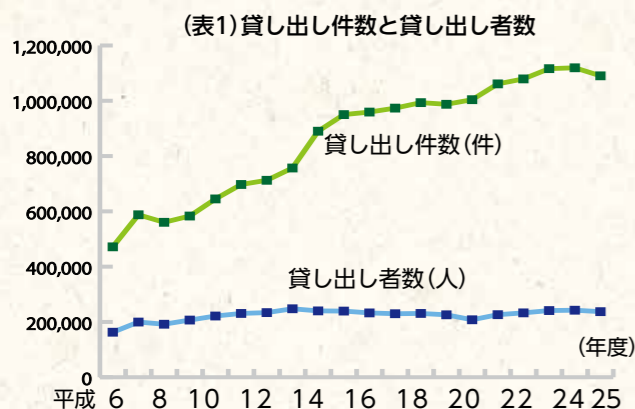
今後とも時代の変化に合わせてながら、市民の皆さんのニーズに合った、親しまれる図書館を目指し、さまざまなサービスを

展開していきます。

進む中高生の読書離れ

テレビゲームやインターネット、スマートフォンなどさまざまな情報メディアの普及に伴い、読書をめぐる環境は、この20年間で大きく変化しました。しかし、多くの情報がいつでも手に入るようになっていっている一方で、活字・読書離れが進んでいることも指摘されています。

市立図書館(移動図書館、早岐・相浦・世知原・宇久の分館を含む)においても、近年、特



に中高生への貸し出しが減少しています(表2)。平成25年度の貸し出し者数は中学生が5798人、高校生が3170人で、10年前の平成16年に比べ、それぞれ約28%、約57%減少しています。情報化の進展のほか、少子化や生活様式の変化に伴い、子どもたちの家庭での過ごし方や遊び方が変化していることなどが要因として考えられます。

本に親しむ環境づくり

読書活動は子どもの心身の成長や人格形成にとってかけがえ

のないものと言われています。

市教育委員会でも平成22年に「読書大好き佐世保っ子プラン21」を策定し、学校司書の配置をはじめ、さまざまな機関が連携し、子どもが本に親しみやすい環境づくりを進めています。以後のページでは、将来を担う子どもたちに本と出会うきっかけを作る「読み語り」ボランティアの皆さんや「中高生向け図書」担当の司書職員、ヤングアダルト図書コーナーなどを紹介します。

インターネット蔵書検索・予約システム
予約した本が返却されるとメールでお知らせします。受け取り場所も図書館や早岐・相浦・世知原・宇久地区公民館の図書室から指定できます！
※予約を希望する場合は登録が必要です。



知っていますか？
図書館の便利なサービス



九十九島水族館「あまもぼ」で読み語りを行う「おはなしたからばこ」の小森さん。

1500回の読み語り

市立図書館で昭和54年から続く「おはなし会」。毎週土曜日(休館日除く)に開催し、ことし2月には開始から1500回を迎えました。そうした取り組みなどが評価され、平成21年には子ども読書活動優秀実践図書館として、文部科学大臣表彰を受賞しました。

読み語りを市民の皆さんの手で

市立図書館では、平成20年から市民向けの読み語り養成講座を開講するなど、読み語りができる人材の育成にも力を注いできました。「おはなしたからばこ」は図書館の読み語り養成講座を受講した有志によって結成された読み語りボランティアグループです。

「自分の子育てがじっくりできなかつたから、その反省もあって…」地域で活動していたが、本の選び方や正しい読み語りについてもっと学びたく

て「以前から読み語りに興味があったので」など、メンバーはいろいろな思いで図書館の講座を受講した。地域も年齢も異なる皆さんです。

平成22年に結成して以来、週に1度のミーティングや図書館司書による指導を受けながら、市立図書館を中心に、保育園や九十九島水族館内の「あまもぼ」などでも読み語りの活動をしています。

一番の楽しみは生き生きとした表情との出会い

手遊びに始まり、絵本の読み語り、エプロンシアターにベーパーサート(紙人形劇)などキラキラしたお話がたくさん詰まった、まるで「たからばこ」のような30分。集中して楽しんでもらうための工夫を凝らした読み語りに、子どもたちは引き込まれます。

ボランティアとはいえ、小道具の作成から絵本の選択、細かい時間配分まで、読み語りの前

には入念に準備をします。「その場しのぎの読み語りでは人前に出せません。みんな真面目でプロ意識が高いんです」と会長の山本さん。

「やりがいを感じるときは？」と質問すると「子どもたちが絵本の世界に引き込まれたときに見せる笑顔や驚きの顔、生き生きとした表情との出会いが一番の楽しみ。読み語りの本を好きになるきっかけになれば嬉しいですね」とメンバーの筒井さんは話してくれました。

ぜひ遊びに来てください

図書館では、対象年齢ごと、曜日ごとに職員やボランティアによる読み語りのイベントを開催しています。小さなお子さんを持つお父さん、お母さん、読み語りに興味がある市民の皆さん、図書館のおはなしのへやに遊びに来てみませんか。

取材日 7月23日、8月2日

読み語りの日程

市立図書館「おはなしのへや」

- いないないばあ(0歳~1歳)
第2、3、4木曜11時(20分程度)
- おはなしたからばこ(幼児~大人)
第3、4日曜11時~11時30分
- おはなし会(幼児~大人)
毎週土曜14時30分~15時
- とことことこ(1歳~未就学児)
第1日曜11時(20分程度)

九十九島水族館「あまもぼ」

- こどもひろばお楽しみ会(幼児~大人)
第1土曜11時30分、14時30分
※入館料が別途必要です。



読み語りボランティアグループ「おはなしたからばこ」の皆さん。後列左から筒井さん、木島さん、鹿久保さん、前列左から会長の山本さん、高野さん、小久保さん、小森さん。(8月現在は8人で活動)。

※市立図書館では、今年度も読み語りの養成講座を予定しています。日程が決まり次第、本紙などでお知らせします。読み語りの活動してみたい人、読み語りに興味がある人はぜひご参加ください。

多感な世代だからこそ、たくさんの本と触れ合って欲しい

ヤングアダルト(YA)とは、13歳から19歳の「若い大人」という意味で使われている言葉です。市立図書館では、子どもから大人に成長する時期に読んでほしい「ヤングアダルト図書」のコーナーを設置しています。担当司書の大道智子さんに、YA世代の読書について話を伺いました。

いろいろな分野の本を

ヤングアダルトの年齢設定を踏まえ、YAコーナーは一般室

と児童室の両方に設置しています。まだ知らない人も多いようですが、いろいろな分野の本をそろえたコーナーで、中高生はもちろん、子どもを持つお母さんや一般の人たちにも利用していただいています。

難しい年頃だからこそ、読んでほしい本がある

中高生はさまざまな分野について興味や関心を持ち始める時期かと思えます。例えば自分の心や体、将来の仕事、世界情勢



市立図書館司書 大道智子さん

などについてです。興味のある分野の本を読もうと思っても、

広い図書館の中から本を選ぶのはなかなか難しいですよ。司書として本選びを手伝いたくても、その年頃の子どもたちはあまり大人に関わりたがらないこともあるので、こちらから積極的に声を掛けたりすることが難しい。そんな多感な世代の子どものための要望や疑問に答えてくれる本、そんな時期だからこそ読んで欲しい本を選んで、YAコーナーに設置しています。本は読まなくても困ることはないと思いますが、自分以外のいろいろな視点から物事を見ることができ、考えの幅が広がります。そういった意味でも、若い世代にはたくさん本と触れ合って欲しいですね。

一人になる時間も大切

最近の子どもたちは、昔と比べて色々な意味で「忙しい」ように思えます。インターネットやSNSを通じて常に人とつなが

がっていて、否が応でも膨大な量の情報が入ってくる。そんな忙しい時代では、「一人」になること自体を良くないことと思っている子どもも多いのではないのでしょうか。

みんなと楽しむのも、もちろん良いことですが、ずっと忙しく走っていたら疲れてしまいませんか。特に若い子たちには、自分自身について、将来について、一人で考える時間も必要です。ちょっと立ち止まって、自分と対話する手段として、本を活用してくれたらと思っています。

本選びに迷ったら

YA世代に限ったことではありませんが、いざ読書しようと思っても読みきるのが難しかったり、漫画と違って本となると人によっては一気にハードルが上がったりする人もいます。読む力は時間をかけて養うもの。本を読む習慣が無い人には「ちょい読み」といって、一作品が5〜10分で読み終わる、短

編小説集のような本から始めるのもお勧めです。

市立図書館では、児童室と一般室の入口側にお薦めの本コーナーを設け、さまざまな本を紹介しています。YAコーナーでも、季刊で本のレビューなどを掲載するリーフレット「集まれ！ヤングアダルト!!」を配布していますので、本選びの参考にしてみてくださいと思います。どんな本を読んだらよいか分からないという人は、本のプロである司書やレファレンスコーナーを気軽に利用してくださいね。

取材日 7月25日

図書館からのお知らせ

雑誌の除籍ボランティア募集
10月1日④～5日⑥のうち1日10時～18時
定員2人
④電話で市立図書館へ
⑤9月20日④

歴史関係の書籍を販売

佐世保市の歴史を知るための基本資料として、次の書籍をご利用ください。
①佐世保市史通史編下巻7千円
佐世保市史軍港史編上巻・下巻各6千円、佐世保事典1300円、佐世保年表1300円
※詳しくは郷土資料室でお尋ねください。

市立図書館

住所 宮地町3の4

開館時間 10時～18時

※木・金曜は一般室、講座室は20時まで。

休館日 月曜、祝日(月曜の場合)

合は翌日も、第3金曜

問い合わせ ☎22・5618

拡大版 今月のおすすめ図書



遠野物語 remix

柳田國男 京極夏彦 著 (角川学芸出版)

柳田國男の名著「遠野物語」を京極夏彦が現代語訳し、テーマごとに再構成した作品です。人の姿をしていても人ではないものの、座敷童衆に神隠し… 怪異が身近にあり、それと共存していたのはほんの100年ほど昔のこと。不思議なものを不思議と感じながらもそれを事実と捉え、遠野の里に語り継がれてきた怪異の物語です。



もりのなか

マリー・ホール・エッツ 文 絵
まさきりこ 訳 (福音館書店)

男の子が森に入っていくと、ライオンや象など動物たちが次々とやって来ます。みんなで一列

に並んで散歩をしたりおやつを食べたり遊んだり… 独特な味わいのある絵本で、一見地味にも見えるモノクロームの画面は子どもたちをすっぽりとファンタジーの世界へいざなう、不思議な魅力があるようです。



15歳の寺子屋 ひとり

吉本隆明 著 (講談社)

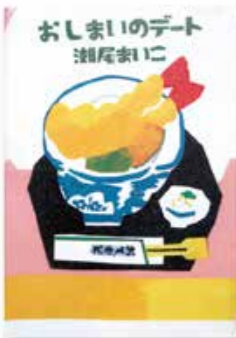
「戦後思想界の巨人」と言われている著者ですが、語られている内容はおじいちゃんが思い出話と一緒に子どもたちに語っているようなものばかり。将来の不安や恋愛の悩み、そして「ひとり」と感じたことがある人には手に取ってほしい一冊です。



クローディアの秘密

E.L.カニグズバーグ 著
松永ふみ子 訳 (岩波書店)

クローディアは弟ジョーイを連れて家出しました。隠れ家はなんとニューヨークのメトロポリタン美術館！そこでミケランジェロに興味を持った彼女は調べていくうちに作品にまつわる重大な秘密を発見します。彼女の美術館や図書館の使い方は必読ものです！



おしまいのデート

瀬尾まいこ 著 (集英社)

彼氏彼女や夫婦をするのだけがデートじゃない。おじいちゃんと孫、元教師と教え子、同じクラスの男子同士、OLと大学生。いろいろなデートの形があります。「おしまいのデート」ですが、「はじまり」も感じさせてくれる、切なくも心温まるデートが描かれた5編の作品集です。